

## 海外展開の可能性 日本型ものづくりの 国際化に向けて ―ベトナム編―



紀和テクニカルワークスのベトナム工場。門真市の本社とモニターで細かいニュアンスが確認でき、コミュニケーションも密に。



**田中** それは将来への先行投資とらえています。

**小浦** 人材の確保や育成とともに、大切なのが管理体制の確立です。うちでは出納帳の明細と項番をエクセルファイルと紐付けた、独自の財務システムを構築しています。材料費であれば、それが何の材料費なのか、項番をすべてに振り、全項目で総計が合うまでチェックしています。

**田中** 製造原価管理ですね。それがきちりできていますから、「粗利率が高過ぎる」とツツこめるわけですね。

**小浦** それとリアルタイムでやりとりできるテレビ電話と、遠隔拠点・工場を監視するシステムを導入して、モニターで現場を常時チェックできるようにしています。そういう細かい管理をすることが不正の抑止力になり、スタッフの意識の向上、さらには品質の向上にもつながるんです。

### 日本型ものづくりの国外での継承と発展。

**小浦** 変化のスピードが速いと言われていますが、実際に現地にいると全然速くない。まだ発展途上の国ですが、中国のように一気に駆け上がる、スピード感はないですね。

**山田** 為替や日本国内の情勢の変化のほうが大きい。円高になったり円安になったり私たちが振り回されてます(笑)

**小浦** そうですね。10年前と4、5年前に出た企業、この進出時期の違いは大きい。円高の頃はすごい勢いで進出も増えましたが、円安になったとたんピタッと止まりましたから。長期的に見れば経済は伸びていますが、だからといって、来てすぐ仕事がどんどん入る状況ではない。

**山田** 最近は仕事も少ないといえますね。

**小浦** 円高から円安に移るタイミングで進出した会社では、不景気だった時期でもあり、早々にリタイアしたところも。ビジネスの内容によりますが、そのあたりはしっかり、リサーチしてこないダメです。それと現地に着いたら、すぐ動きたくなると思うのですが、きちんとしたQCDが確保できる、ものづくり体制が整備するまで、営業すべきではありません。まずはなにより「体制整備が先決」。

**田中** 私がベトナムに注目するのは、「地政学的優位性」。ASEANに加盟し、TPPにも加入している。つまり北米からシンガポールまでカバーできる。原産地証明ですから、日本企業がベトナムでものをつくって、ASEANに輸出するにしても、逆にASEANからオーダーがきたものを、ベトナムでつくってアメリカに送っても、関税はかからない。

**山田** ベトナムがTPPでどんな役割を果たすのか、そこは非常に気になるところでね。

**田中** それと今まではベトナムに進出するなら、ハノイかホーチミンの両極しかなかったのが、ダナン南部に中部都市工業団地ができていて、4年前に自動車の工場が集中するタイが水害があった時、一時的な受け皿となったことがありました。将来的にはここを中心とした、自動車生産の「中継地的」な発展の仕方もあると思うんです。



**小浦** そういう流れで、変わってくる可能性はありますね。

**山田** ベトナムの最大の魅力は、平均年齢30歳以下と若いことだと思います。当社も海外展開は、少子高齢化対策のひとつとして始めました。国内での、ものづくりの次世代育成は重要ですが、質的・量的に十分とはいえない。ベトナムなら若い労働力が期待できる。また人と人とのつながりを大切にする、信頼関係を築きやすい土壌もある。ものづくり企業の経営者なら、家族のような関係をつくり、上手くやっていけるかもしれない。

**小浦** 人材確保のために、パイプを持つのはいいですね。

**山田** うちには後継者育成のためにつくった、名古屋工場もあり、今は60代の職人が3人で回していますが、そこに若いベトナム人を入れて、いずれは彼らに任せたい。同時にベトナムで優秀な人が育ったら、ここに呼ぶつもりです。

**田中** 今も海外には半年に1回は通っていますが、毎回、感じるはその情熱。ローカルで働いている人は、社長だけでなく、若い職人も、熱い人が多いんですよ。彼らには、日本のものづくり精神に通じるものを感じます。

**小浦** 私が実習制度を利用する理由も、それです。

**山田** 長期的なビジョンを持つことが大事です。ただ技術や価格の問題があって、中国のモデルケースはここでは通用しない。難しいものは日本の企業で、大量生産できるものはベトナムの企業と、日本が貢献できる領域、分野を担う。ベトナムだけで、いろんな部品を作るのは難しいですが、それを助けるのが日本のものづくり企業だと考えている。それが日本のためでもあり、ベトナムのためでもあります。

### TODAY'S MEMBER



#### 設備機械の設計、製作、組立、据付、メンテナンスまで一貫生産。

FA(ファクトリーオートメーション)用設備の設計製作から機械加工、メンテナンスまでトータルサポートをおこなう。設備の販売だけでなく、最近ではハイレベルな技術が要求されるスマホ関連装置、半導体、電子部品などの製造装置を数多く手がけている。グループ企業として、2005年にベトナム工場を設立し、200名の工場スタッフが機械加工業務に従事。日本とベトナムではテレビ電話でつながるようになっており、生産状況の確認や打ち合わせなど、きめ細かな対応や品質管理を可能としている。

#### 紀和テクニカルワークス株式会社

社員数 25 人 門真市城垣町 3-24  
TEL.072-884-7705 <http://www.kiwa-tw.com/>

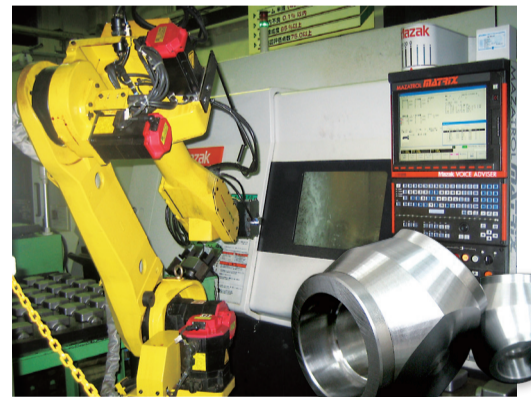


#### 国内シェア約 60%を誇る インパルス式シーラーのトップメーカー

1956年、硬質塩化ビニールを溶接するための「ホットジェット溶接機」を商品化。その後、ヒーターに瞬間的に大電流を流し、熱伝導によりプラスチック袋を接着するインパルス式シーラーのトップメーカーとなる。食品、電子部品、精密部品、農業、医療など幅広い分野で使用されている。ベトナム、中国にも生産拠点を有し、ベトナムから世界へ輸出することを目指す。ベトナムにおけるものづくり中小企業ネットワーク計画の推進・支援をおこなう「ザ・サポート株式会社」も設立。

#### 富士インパルス株式会社

社員数 100 人 豊中市庄内栄町 4-23-18  
TEL.06-6335-1663 <http://www.fujimpulse.co.jp/>



#### トータルな生産体制を備えた 「提案型」のものづくり企業。

油圧シリンダーを中心に、金属・非鉄金属部品の加工をてがける。また複合旋盤、2軸旋盤、マシニングセンタなどの社内加工技術で、多様化する顧客ニーズに応えるだけでなく、60年以上かけて築き上げた、80社を超える協力企業とのネットワークを最大限活用して、素材選定から加工、工法提案まで一貫して対応する。ISO9001認証取得。2012年には「環境に優しい企業」へのステップとして、ISO14001:2004の認証も取得、品質に加えて環境管理・体制改善に取り組む。2013年度 大阪ものづくり優良企業賞受賞。

#### 近畿工業株式会社

社員数 19 人 東大阪市本庄 2-1-25  
TEL.072-962-0361 <http://www.kinki-ind.co.jp/>